

# 令和5年度 第1回 高等学校入学者選抜審議会

日時 令和5年7月26日(水) 10:00～

場所 行政庁舎11階 第二会議室

## 次 第

### 1 開 会

### 2 諮 問

- (1) 令和7年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について
- (2) 令和7年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について

### 3 審 議

- (1) 令和7年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について
- (2) 令和7年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について
- (3) 高校入試におけるWeb出願の導入及び調査書記載事項の精選等についての調査研究について

### 4 報 告

- (1) 令和5年度宮城県公立高等学校入学者選抜結果について
- (2) 令和6年度宮城県公立高等学校入学者選抜について
- (3) 専門委員会報告
  - イ 宮城県公立高等学校入学者選抜の実施に係る検証結果について
  - ロ 「求める生徒像」の改善の方向性について

### 5 その他

### 6 閉 会

## 【 資 料 】

- 資料1 諮問・審議関係資料
- 資料2 報告関係資料
- 別 冊
  - ・宮城県公立高等学校入学者選抜の実施に係る検証結果について(報告)
  - ・令和5年度宮城県公立高等学校入学者選抜学力検査の分析結果
  - ・令和6年度宮城県公立高等学校入学者選抜求める生徒像・選抜方法一覧

# 高等学校入学者選抜審議会条例

(昭和28年3月28日条例第40号)

最終改正 平成24年12月条例第71号

**第1条** 教育委員会の諮問に応じ、高等学校の通学区域の検討、入学者の選抜の方法及びその実施並びに学力検査問題の作成について調査審議するため、高等学校入学者選抜審議会（以下「審議会」という。）を置く。

**第2条** 審議会は、30人以内の委員で組織する。

2 審議会に、専門の事項を調査研究させるため、専門委員を置く。

**第3条** 委員及び専門委員は、学校の教職員、総合教育センターの職員、教育庁の職員及び学識経験者のうちから教育委員会が任命又は委嘱する。

**第4条** 委員の任期は二年とする。ただし、補欠による委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 教育委員会が必要と認めるときは、前項の規定にかかわらず、任期中においても当該委員を解職することができる。

3 専門委員は、当該専門の事項に関する調査研究が終了したときは、退任するものとする。

**第5条** 審議会に、委員長及び副委員長各一人を置き、委員の互選によって定める。

2 委員長は、会務を掌理する。

3 副委員長は、委員長に事故あるとき、その職務を代行する。

**第6条** 審議会の会議は、必要に応じて委員長が招集する。

**第7条** この条例に定めるものを除く外、審議会の議事の手続その他審議会の運営に関し必要な事項は、委員長が会議にはかつて定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（昭和47年10月11日条例第27号抄）

（施行期日）

1 この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成24年12月20日条例第71号抄）

（施行期日）

1 この条例は、平成25年4月1日から施行する。

# 第1回高等学校入学者選抜審議会 名簿

(審議会委員)

No.	氏名	現職	備考
1	田端 健人	宮城教育大学教職大学院 教授	
2	熊谷 龍一	東北大学大学院教育学研究科 准教授	
3	坪田 益美	東北学院大学地域総合学部 准教授	
4	川嶋 輝彦	仙台経済同友会 常任幹事・事務局長	
5	高橋 千香子	宮城県高等学校PTA連合会 理事	
6	浅野 直美	宮城県PTA連合会 会長	
7	志小田 美弘	東松島市教育委員会 教育長	
8	田中 元昭	仙台市教育局学校教育課 課長	
9	伊藤 宣子	聖ウルスラ学院英智高等学校 校長	
10	小野 ゆかり	美里町立南郷中学校 校長	
11	本木 一昭	仙台市立長町中学校 校長	
12	猪股 智秋	宮城教育大学附属中学校 校長	
13	高橋 賢	仙台第二高等学校 校長	
14	勅使瓦 理恵	村田高等学校 校長	
15	徳能 順子	泉松陵高等学校 校長	
16	中山 治彦	総合教育センター 所長	

(教育庁)

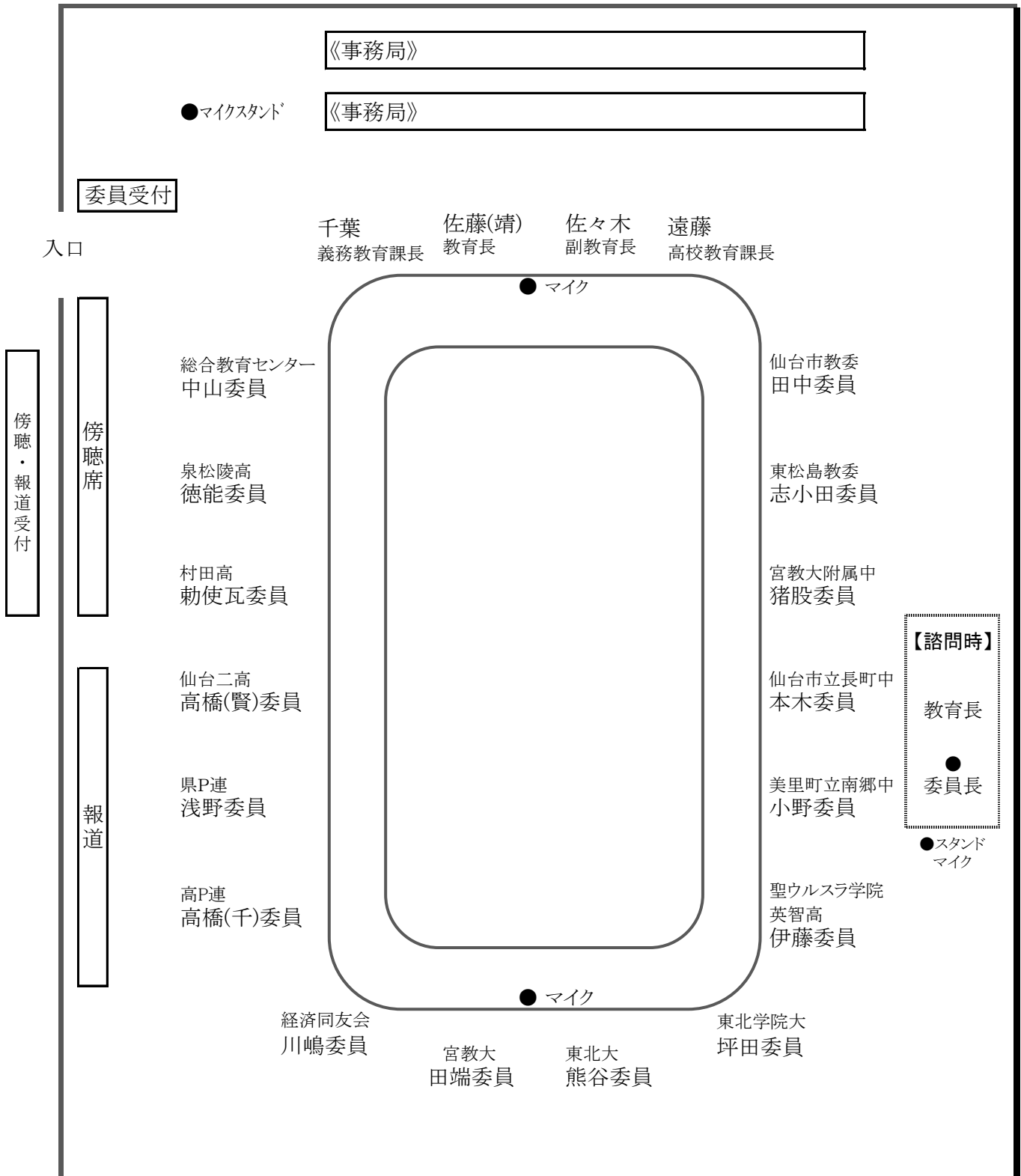
教育委員会	教育長	佐藤 靖彦
	副教育長	佐藤 芳明
	副教育長	佐々木利佳子
教職員課	県立学校人事班課長補佐	佐藤 智子
義務教育課	参事兼課長	千葉 潤一
	指導班副参事	村上 憲一
高校教育課	参事兼課長	遠藤 秀樹
	副参事兼総括課長補佐	高橋 淳
	総括課長補佐	伊藤 大輔
	教育改革班主幹	池田 和繁
	教育指導第一班課長補佐	早川 健次
	〃 主幹	清原 和
	〃 主幹	菊地 賢一
	〃 主幹	菅野 準
	〃 主任主査	佐々木 威芳
	〃 主査	幸田 雄介
	教育指導第二班課長補佐	上遠野 裕子
	〃 主幹	菅野 麻美
	〃 主幹	岡田 康佑
	〃 主幹	田畑 洋行

(仙台市教育局)

学校教育課	高校教育課 課長	西城 光洋
	〃 指導主事	末永 光洋

# 令和5年度 第1回高等学校入学者選抜審議会 座席図

行政庁舎11階 第二会議室



# 諮問・審議 関係資料

## 諮 問

諮問文 . . . . . 1

1 令和7年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について（別紙1） . . . 2

2 令和7年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について（別紙2） . . . 4

## 審 議

1 令和7年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について . . . . . 5

2 令和7年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について

（1）平成25年度～令和6年度高等学校入学者選抜日程の推移 . . . . . 5

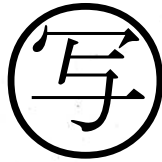
（2）令和7年度入学者選抜日程のシミュレーション . . . . . 6

3 高校入試におけるWeb出願の導入及び調査書記載事項の精選等についての調査研究について

（1）高校入試におけるWeb出願の導入について . . . . . 7

（2）調査書記載事項の精選等について . . . . . 9

（3）専門委員会の設置について . . . . . 10



高 第 2 1 1 号  
令和 5 年 7 月 2 6 日

高等学校入学者選抜審議会委員長 殿

宮城県教育委員会  
教育長 佐藤 靖彦



宮城県立高等学校入学者選抜について（諮問）

このことについて、高等学校入学者選抜審議会条例第1条の規定により、  
下記事項について諮問します。

記

- 1 令和7年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について（別紙1）
- 2 令和7年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について（別紙2）

## 令和7年度宮城県立高等学校入学者選抜方針(案)

宮城県立高等学校における入学者選抜は、高等学校及び中学校における教育の目的の実現及び健全な教育の推進を期し、公正かつ適正な選抜方法と選抜尺度により厳正に行うものとする。

### 1 基本原則

- (1) 各宮城県立高等学校長(以下「高等学校長」という。)は、その教育を受けるに足る多様な能力と適性等を積極的に評価し、選抜するものとする。
- (2) 出願事務及び選抜事務の厳正を期するため、中学校にあっては調査書等作成のための委員会を、宮城県立高等学校(以下「高等学校」という。)にあっては選抜のための委員会を設置するものとする。

### 2 第一次募集

- (1) すべての高等学校は、学校・学科の特色に応じて、第一次募集を実施する。選抜に当たって、高等学校長は、原則として、調査書、学力検査の結果及び必要に応じて実施する面接、実技(体育及び美術に関する学科の場合)、作文の検査結果に基づいて共通選抜と特色選抜の2通りの方法により選抜するものとする。
- (2) 学力検査
  - イ 学力検査の実施教科は、国語、社会、数学、理科及び英語とする。
  - ロ 学力検査の内容は、中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎的・基本的なものを重視するとともに、生徒の多様な能力・適性等が評価できる適切な質と分量の問題になるよう配慮するものとする。

### 3 追試験

すべての高等学校は、第一次募集検査日当日に、やむを得ない事由により受験できなかった者を対象に、追試験を実施する。

この場合、学力検査、面接、実技(体育及び美術に関する学科の場合)及び作文並びに選抜方法等については、第一次募集に準ずる。

### 4 第二次募集

合格者数が、募集定員に満たない場合においては、第二次募集を行うものとする。選抜に当たって、高等学校長は、調査書のみの審査、あるいは調査書に、第二次募集の学力検査、面接、実技(体育及び美術に関する学科の場合)及び作文のいずれか一つ又は複数の結果を合わせた審査を行うことができる。

### 5 連携型中高一貫教育に関する選抜

連携型中高一貫教育を実施する高等学校は、連携型中高一貫教育を実施する中学校の卒業生を対象とした選抜を実施する。選抜に当たって、当該高等学校長は、原則とし

て、調査書、その他必要な書類、学力検査（第一次募集に準ずる。）及び面接等の結果に基づいて総合的に審査するものとする。

## **6 社会人特別選抜**

定時制課程の学科を有する高等学校においては、第一次募集において社会人を対象とした選抜を行うことができる。当該高等学校長は、学力検査について、弾力的に対応することができるものとする。

## **7 通信制課程に関する選抜**

当該高等学校長は上記によらず、選抜を行うことができるものとする。

## **8 全国募集選抜**

全国募集を行うモデル校として指定された高等学校は、該当する市町村と生徒受け入れに関して連携して、全国募集選抜への出願者を対象とした選抜を実施する。

この場合、募集人数は、募集定員の外数とし、選抜に当たって、当該高等学校長は、原則として、調査書、学力検査（第一次募集に準ずる。）及び面接等の結果に基づいて総合的に審査するものとする。



## 令和7年度宮城県立高等学校入学者選抜日程(案)

### 第一次募集

実 施 日 令和7年 3月 4日 (火)

追 試 験 日 令和7年 3月 7日 (金)

合格発表日 令和7年 3月13日 (木)

**審 議**

**1 令和7年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について**

令和7年度宮城県立高等学校入学者選抜方針（案）（2ページ（別紙1）参照）

**2 令和7年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について**

（1）平成25年度～令和6年度宮城県立高等学校入学者選抜日程の推移

入試年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度
入試制度	前期選抜・後期選抜・第二次募集							第一次募集・第二次募集					
推薦入学・前期選抜 出願者受付	1.11～16	1.14～17	1.13～16	1.12～15	1.10～13	1.9～12	1.8～11	\					
推薦入学出願者の 面接等													
（私立高入試A日程）	1.28(月)	1.29(水)	1.28(水)	1.27(水)	1.25(水)	1.24(水)	2.4(月)	2.4(火)	2.2(火)	2.1(火)	1.31(火)	1.30(火)	
（私立高入試B日程）	1.30(水)	1.31(金)	1.30(金)	1.29(金)	1.27(金)	1.26(金)	2.6(水)	2.6(木)	2.4(木)	2.3(木)	2.2(木)	2.1(木)	
前期選抜実施日	2.1(金)	2.4(火)	2.3(火)	2.3(水)	2.1(水)	1.31(水)	1.31(木)	\					
推薦入学結果通知 前期合格発表	2.12(火)	2.12(水)	2.10(火)	2.12(金)	2.9(木)	2.8(木)	2.8(金)						
第一次募集(後期選抜) 出願受付	2.20～25	2.20～25	2.19～24	2.23～26	2.21～24	2.19～22	2.18～21	2.17～20	2.15～18	2.15～18	2.14～17	2.13～16	
第一次募集(後期選抜) 学力検査	3.7(木)	3.6(木)	3.5(木)	3.9(水)	3.8(水)	3.6(火)	3.6(水)	3.4(水)	3.4(木)	3.4(金)	3.6(月)	3.5(火)	
第一次募集(後期選抜) 追試験								3.10(火)	3.10(水)	3.10(木)	3.13(月)	3.8(金)	
第一次募集(後期選抜) 合格者の発表	3.13(水)	3.12(水)	3.12(木)	3.16(水)	3.16(木)	3.14(水)	3.14(木)	3.16(月)	3.16(火)	3.16(水)	3.16(木)	3.14(木)	
第二次募集出願受付	3.14～18	3.13～17	3.13～17	3.17～18	3.17～21	3.15～19	3.15～18	3.17～19	3.17～19	3.17～22	3.17～22	3.15～19	
第二次募集実施日 ・合格発表	3.21～22	3.19～20	3.19～20	3.23～24	3.22～23	3.20 又は22	3.19 又は20	3.23 又は24	3.22 又は23	3.23 又は24	3.23 又は24	3.21 又は22	

※令和7年カレンダー

1 月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2 月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

3 月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

(2) 令和7年度入学者選抜日程のシミュレーション

令和6年度入試 (2024年)			令和7年度入試 (2025年)								
			案1		案2		案3				
火	1月9日		水	1月8日	出願希望調査	水	1月8日	出願希望調査	水	1月8日	出願希望調査
水	10日	出願希望調査	木	9日	出願希望調査	木	9日	出願希望調査	木	9日	出願希望調査
木	11日	出願希望調査	金	10日	出願希望調査	金	10日	出願希望調査	金	10日	出願希望調査
土	12日	出願希望調査	土	11日		土	11日		土	11日	
日	13日		日	12日		日	12日		日	12日	
月	14日		月	13日	成人の日	月	13日	成人の日	月	13日	成人の日
火	15日		火	14日		火	14日		火	14日	
水	16日		水	15日		水	15日		水	15日	
木	17日		木	16日		木	16日		木	16日	
金	18日		金	17日		金	17日		金	17日	
土	19日		土	18日		土	18日		土	18日	
日	20日		日	19日		日	19日		日	19日	
月	21日		月	20日		月	20日		月	20日	
火	22日		火	21日		火	21日		火	21日	
水	23日		水	22日		水	22日		水	22日	
木	24日		木	23日		木	23日		木	23日	
金	25日		金	24日		金	24日		金	24日	
土	26日		土	25日		土	25日		土	25日	
日	27日		日	26日		日	26日		日	26日	
月	28日		月	27日		月	27日		月	27日	
火	29日	私立A日程	火	28日		火	28日		火	28日	
水	30日		水	29日		水	29日		水	29日	
木	31日		木	30日		木	30日		木	30日	
金	2月1日	私立B日程	金	31日		金	31日		金	31日	
土	2日		土	2月1日		土	2月1日		土	2月1日	
日	3日		日	2日		日	2日		日	2日	
月	4日		月	3日		月	3日		月	3日	
火	5日		火	4日		火	4日		火	4日	
水	6日		水	5日		水	5日		水	5日	
木	7日		木	6日		木	6日		木	6日	
金	8日		金	7日		金	7日		金	7日	
土	9日		土	8日		土	8日		土	8日	
日	10日		日	9日		日	9日		日	9日	
月	11日	建国記念の日	月	10日	第一次募集出願	月	10日	第一次募集出願	月	10日	第一次募集出願
火	12日	振替休日	火	11日	建国記念の日	火	11日	建国記念の日	火	11日	建国記念の日
水	13日	第一次募集出願	水	12日	第一次募集出願	水	12日	第一次募集出願	水	12日	第一次募集出願
木	14日	第一次募集出願	木	13日	第一次募集出願	木	13日	第一次募集出願	木	13日	第一次募集出願
金	15日	第一次募集出願	金	14日	第一次募集出願	金	14日	第一次募集出願	金	14日	第一次募集出願
土	16日	第一次募集出願	土	15日		土	15日		土	15日	
日	17日		日	16日		日	16日		日	16日	
月	18日		月	17日	第一次募集出願	月	17日		月	17日	
火	19日		火	18日		火	18日		火	18日	
水	20日		水	19日		水	19日		水	19日	
木	21日		木	20日		木	20日		木	20日	
金	22日		金	21日		金	21日		金	21日	
土	23日	天皇誕生日	土	22日	天皇誕生日	土	22日	天皇誕生日	土	22日	天皇誕生日
日	24日		日	23日	振替休日	日	23日	振替休日	日	23日	振替休日
月	25日		月	24日	振替休日	月	24日	振替休日	月	24日	振替休日
火	26日		火	25日		火	25日		火	25日	
水	27日		水	26日		水	26日		水	26日	
木	28日		木	27日		木	27日		木	27日	
金	29日		金	28日		金	28日		金	28日	
土	3月1日	卒業式	土	3月1日	卒業式	土	3月1日	卒業式	土	3月1日	卒業式
日	2日		日	2日		日	2日		日	2日	
月	3日		月	3日		月	3日		月	3日	
火	4日		火	4日	第一次募集学力検査日	火	4日	第一次募集学力検査日	火	4日	第一次募集学力検査日
水	5日	第一次募集学力検査日	水	5日	第一次募集面接等	水	5日	第一次募集面接等	水	5日	第一次募集面接等
木	6日	第一次募集面接等	木	6日	第一次募集面接等	木	6日		木	6日	
金	7日		金	7日	第一次募集追試験	金	7日	第一次募集追試験	金	7日	第一次募集追試験
土	8日	第一次募集追試験	土	8日		土	8日		土	8日	
日	9日		日	9日		日	9日		日	9日	
月	10日		月	10日	第一次募集追試験	月	10日	第一次募集追試験	月	10日	
火	11日	鎮魂の日	火	11日	鎮魂の日	火	11日	鎮魂の日	火	11日	鎮魂の日
水	12日		水	12日	第一次募集追試験	水	12日		水	12日	
木	13日		木	13日		木	13日		木	13日	第一次募集合格発表
金	14日	第一次募集合格発表	金	14日	第一次募集合格発表	金	14日	第一次募集合格発表	金	14日	第二次募集出願
土	15日	第二次募集出願	土	15日		土	15日		土	15日	
日	16日		日	16日		日	16日		日	16日	
月	17日		月	17日	第一次募集合格発表	月	17日	第二次募集出願	月	17日	第二次募集出願
火	18日	第二次募集出願	火	18日	第二次募集出願	火	18日	第二次募集出願	火	18日	第二次募集出願
水	19日	第二次募集出願	水	19日	第二次募集出願	水	19日	第二次募集出願	水	19日	第二次募集合格発表
木	20日	春分の日	木	20日	春分の日	木	20日	春分の日	木	20日	春分の日
金	21日	第二次募集実施合格発表	金	21日	第二次募集実施合格発表	金	21日	第二次募集実施合格発表	金	21日	第二次募集合格発表
土	22日	第二次募集合格発表	土	22日		土	22日		土	22日	
日	23日		日	23日		日	23日		日	23日	
月	24日		月	24日	第二次募集実施合格発表	月	24日	第二次募集合格発表	月	24日	
火	25日		火	25日	第二次募集合格発表	火	25日		火	25日	

### 3 高校入試におけるWeb出願の導入及び調査書記載事項の精選等についての調査研究について

#### (1) 高校入試におけるWeb出願について

##### イ 背景

現行入試制度の検証に係る調査からは、前期選抜と後期選抜の入試を一本化したことで、入試期間の長期化が解消され、受験生、中学校、高等学校のいずれからも心理的、事務作業量の負担の軽減につながったとの肯定的回答を得ている。しかし、出願に係る受験生及び学校側の事務手続きについては従前どおりで、教育活動と並行して行われる入試事務の多忙化は、依然として課題となっている。

##### ロ 現状の課題

###### (イ) 生徒及び保護者側の負担

- ・ 願書記入において、記入漏れや誤記載など中学校側との確認作業に時間を要する
- ・ 受験料納付のため、限られた場所及び時間での収入証紙購入が困難

###### (ロ) 中学校及び高校側の負担

- ・ 中学校側：入学願書記入に係る指導及びとりまとめ等に係る事務作業が煩雑で時間を要する  
在校生徒分の受験票を高校から受領し、各生徒に配付しなければならない
- ・ 高校側：出願者数の把握及び入学願書等のデータ入力に煩雑で時間を要する  
交付する受験票を期間内に中学校ごとに送付する等の事務作業が煩雑

##### ハ Web出願導入によるメリット

###### (イ) 生徒及び保護者

- ・ Webシステムの入力内容自動チェック機能により、入力漏れを防止
- ・ オンライン決済等により、時間と場所を問わず受験料納付を含めて出願が可能

###### (ロ) 中学校及び高校側

- ・ 中学校側：入学願書の配布や記入に係る指導及びとりまとめ等に係る事務作業が軽減  
高校側から受領した受験票の、各生徒への配付作業事務を削減
- ・ 高校側：入学願書等のデータ入力の負担が軽減  
受験票交付に係る押印、発送等の事務作業が軽減

##### ニ 導入に向けた課題

- ・ Web出願のために用いる高度なセキュリティを確保したシステムの構築
- ・ 出願者のインターネット接続環境及びメールアドレス保有状況
- ・ オンライン決済等に対応した納付システムの構築
- ・ 入学願書以外の出願書類（調査書等）の電子化と取扱い 等

##### ホ 検討すべき内容

インターネット環境の整備、社会全体のデジタル化が進んでいることから、これまで書面や郵送で行っていた出願手続きをデジタル化、オンライン化することで、受験生や学校の負担軽減及び入試業務の効率化を促進できるか、検討する。

## へ 【参考】全国での実施状況

### (イ) 既に全県で導入している自治体 [志]: 志願者 [中]: 中学校 [高]: 高校 下線/Web 未対応

導入自治体	内 容
福井県	[志] 志願情報登録、志願校情報入力、オンライン決済、受験票の印刷 [中] Web システムで志願者情報・受験料納付の確認及び調査書データを提出 [高] 出願書類を Web システムで受領、出願者情報は Web システムで確認 Web システムで受験票交付 ※ R4 入試から導入。初年度の R4 では、受験料は収入証紙による納付。 ※ 願書受付、名簿作成等の事務作業の負担軽減につながった。
三重県	[志] 利用者登録、入学願書入力、収入証紙納付書に証紙添付 受験票の印刷、受験票に写真を貼付 [中] <u>収入証紙納付書を高校に提出</u> 、Web システムで調査書データを提出 <u>受験票の写真に透明シールを貼付</u> [高] 調査書データは Web システムで受領、出願者情報は Web システムで確認 Web システムで受験票交付 ※ R5 入試から導入。今後、受験料の電子納付ができるよう検討する。
広島県	[志] 志願情報登録、出願情報入力、オンライン決済、受験票の印刷 [中] Web システムで志願情報・受験料納付の確認、 <u>郵送で調査書を提出</u> [高] 出願者情報は Web システムで確認、 <u>調査書は紙媒体で受領</u> 、 Web システムで受験票交付 ※ R5 入試から導入。今後、電子データによる調査書提出ができるよう検討する。

### (ロ) 一部で導入している自治体

導入自治体	内 容
東京都 推薦 分割前期 一般	[志] 志願情報登録、志願校情報入力、オンライン決済、受験票の印刷 [中] Web システムで願書入力情報確認、 <u>郵送で調査書を提出</u> [高] 出願者情報は Web システムで確認、 <u>調査書は紙媒体で受領</u> Web システムで受験票交付 ※ その他の選抜方法においても Web 出願を拡充するか検討している。
埼玉県	[志] 学校の HP 上で願書を作成、印刷したものに収入証紙貼付、受験票の印刷 [中] <u>郵送で願書と調査書を提出</u> [高] <u>願書と調査書は紙媒体で受領</u> 、Web 上で受験票交付 ※ 県立高校 1 校で実施。今後については、検討中。
千葉県	[志] Web システムに志願者情報入力、願書は出力し印刷、受験料は振り込み <u>中学校から調査書を受領し、願書とともに高校へ提出</u> [中] <u>願書の記載内容の確認、押印</u> 。紙媒体の調査書を生徒へ交付 [高] Web システムで受験票を交付 ※ 県立高校 2 校で実施。今後については、検討中。

### (ハ) 今後導入を予定している自治体

- R6 入試からの導入を検討 茨城県、新潟県、愛知県
- R7 入試からの導入を検討 千葉県、沖縄県

## (2) 調査書記載事項の精選等について

### イ 背景

公立高校入試の調査書については、文部科学省等からの通知により調査書の在り方が示されており、各都道府県等では、高等学校入学者選抜の資料となるよう、必要な記載事項を精選し、様式を定めている。近年、新型コロナウイルス感染症の影響等を踏まえた配慮等に係る通知や、学校部活動の地域連携・地域移行に関する関連制度の運用に係る通知等で、調査書の記載内容や活用について言及されている。

### ロ 通知等

- (イ) 「今後の高等学校入学者選抜等における新型コロナウイルス感染症の影響等を踏まえた配慮等について（令和5年6月16日付け5文科初第594号通知より抜粋）

3 調査書の活用等における留意事項について

(中略)

なお、公立高等学校の入学者選抜の調査書の記載事項については、「高等学校入学者選抜について」（平成5年2月22日付け文初高第243号文部事務次官通知）において、「高等学校入学者選抜の資料として、真に必要な事項に精選すること。」としているところであり、今後の調査書の検討に当たっては、入学者選抜の実施に真に必要な事項に見直しを図っていただきますようお願いいたします。

- (ロ) 「『学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関する総合的なガイドラインの策定』及び学校部活動の地域連携・地域移行に関する関連制度の運用について」（令和4年度12月27日付け4ス庁第1640号通知より抜粋）

3 高等学校入学者選抜における学校部活動・地域クラブ活動の取扱い

② 学校部活動・地域クラブ活動に係る調査書への記載内容について調査書の学習成績以外の記録については、生徒の個性を多面的に捉えたり、生徒の長所などを積極的に評価したりするために活用されるものであることから、学校部活動・地域クラブ活動の成果について調査書に記載する際には、単に活動歴や大会成績のみを記述するだけでなく、活動からうかがうことのできる生徒の長所、個性や意欲、能力に言及するなど、記載を工夫することが望ましいと考えられること。

なお、こうした生徒の長所等については、調査書に限らず、生徒による自己評価資料や、面接や小論文などの方法を用い、入試全体を通じて多面的に評価していくことも考えられること。

### ハ 検討すべき内容

調査書の記載事項については、文部科学省からの通知で入学者選抜の実施に真に必要な事項に見直しを図ることが求められており、また、部活動の地域移行に伴い、生徒の校内外での活動の成果について、今後、調査書での取扱いをどのようにするか等、本県公立高校入試の調査書の記載事項及び様式について検討する。

### (3) 専門委員会の設置について

#### 1 専門委員会の設置

高校入試におけるWeb出願の導入及び調査書記載事項の精選等についての調査研究を行うために小委員会を設置する。

#### 2 専門委員の任期

令和5年9月1日から令和6年8月31日まで

## 報告 関係資料

## 報 告

## (1) 令和5年度宮城県公立高等学校入学者選抜結果について

① 総括	1
② 学科別出願者数・合格者数等	2
③ 地区別出願者数・合格者数等（全日制課程）	2
④ 学科別出願倍率	3
⑤ 地区別出願倍率（全日制課程）	3
⑥ 出願状況から見た全県一学区に伴う地区外受験状況について	3
⑦ 令和5年度公立高等学校入学者選抜学力検査の分析結果について	4

## (2) 令和6年度宮城県公立高等学校入学者選抜について

① 募集定員	5
② 日程等	5

## (3) 専門委員会報告

イ 宮城県高等学校入学者選抜の実施に係る検証結果について	別冊
ロ 「求める生徒像」の改善の方向性について	7

## ○補助資料

・ 「求める生徒像・選抜方法」に関する調査項目の回答状況	17
------------------------------	----



## 令和5年度宮城県公立高等学校入学者選抜の結果について

### ① 総括

(単位:人)

		全 日 制 課 程		定 時 制 課 程	
		令和5年度	令和4年度	令和5年度	令和4年度
中学校卒業予定者数 ※1		19,988	19,765	—	—
募 集 定 員 (a)		13,760	13,880	960	960
第 一 次 募 集	出 願 者 数	14,095	14,005	352	325 (3)
	出 願 倍 率 (倍)	1.02	1.01	0.37	0.34
	欠 席 者 数	165	177	8	8
	受 験 者 数	13,930	13,828	344	317 (3)
	受 験 倍 率 (倍)	1.01	1.00	0.36	0.33
	合 格 者 数 (b)	11,984	12,016	332	298 (3)
併設型中学校から併設型高等学校への入学※2		(200)	(202)	↑ (注) ( )内数字は、社会人特別 選抜合格者数で内数 令和5年度は社会人特別選抜受 験者0名。	
連 携 型 選 抜 ※3	募 集 人 数	(72)	(72)		
	出 願 者 数	(48)	(45)		
	合 格 者 数	(47)	(45)		
第 二 次 募 集	募 集 人 数	1,779	1,880	628	663
	出 願 者 数	165	134	30	34
	受 験 者 数	163	133	30	32
	合 格 者 数 (c)	159	122	27	28
全 合 格 者 数 (d) = (b) + (c)		12,143	12,138	359	326
充 足 率 (%) (d) ÷ (a) * 100		88.2%	87.4%	37.4%	34.0%

※1 中学校卒業予定者数は、令和5年度は令和4年5月1日現在、令和4年度は令和3年5月1日現在の数字である。

※2 ※3 併設型中学校から併設型高等学校への入学及び連携型選抜の数値は、第一次募集の出願者数・受験者数・合格者数の内数である。

全国募集選抜※4	出願者数	受験者数	合格者数
	6	6	6

※4 第一次募集人数の外数である。

(単位:人)

		通 信 制 課 程 (一 期)		通 信 制 課 程 (二 期)	
		令和5年度	令和4年度	令和5年度	令和4年度
入 学 者 選 抜	募 集 定 員	450	450	50	50
	募 集 人 数	450	450	223	282
	出 願 者 数	206	173	9月受付	7
	受 験 者 数	206	171	9月実施	7
	合 格 者 数	206	171	9月実施	7

## ② 学科別出願者数・合格者数等

イ 全日制課程

(単位:人、%)

	学 科	募集定員	第一次募集			中高一貫教育 進学者数	第二次募集 合格者数	全合格者数
			出願者数	合格者数	合格率			
1	普通	8,760	9,755	8,077	82.8	236	75	8,152
2	農業	640	528	486	92.0	—	4	490
3	工業	1,480	1,422	1,310	92.1	—	13	1,323
4	商業	1,120	969	837	86.4	11	26	863
5	水産	240	131	136	103.8	—	3	139
6	体育	120	102	98	96.1	—	3	101
7	英語	80	89	80	89.9	—	0	80
8	家庭	120	87	77	88.5	—	3	80
9	看護	40	48	40	83.3	—	0	40
10	理数	120	185	120	64.9	—	0	120
11	美術	40	64	40	62.5	—	0	40
12	総合	840	535	526	98.3	—	32	558
13	福祉	40	37	37	100.0	—	0	37
14	災害科学	40	38	40	105.3	—	0	40
15	探究	80	105	80	76.2	—	0	80
	計	13,760	14,095	11,984	85.0	247	159	12,143

※ 中高一貫教育進学者数は、連携型選抜合格者数と併設型中学校から併設型高校への進学者数を合わせたもの。第一次募集合格者数の内数である。

ロ 定時制課程

(単位:人、%)

	学 科	募集定員	第一次募集			中高一貫教育 進学者数	第二次募集 合格者数	全合格者数
			出願者数	合格者数	合格率			
1	普通	720	322	306	95.0	—	22	328
2	工業	240	30	26	86.7	—	5	31
	計	960	352	332	94.3	—	27	359

## ③ 地区別出願者数・合格者数等(全日制課程)

(単位:人、%)

	地 区	募集定員	第一次募集			中高一貫教育 進学者数	第二次募集 合格者数	全合格者数
			出願者数	合格者数	合格率			
1	刈田・柴田	1,160	1,029	974	94.7	—	32	1,006
2	伊 具	280	198	197	99.5	—	13	210
	南部地区	1,440	1,227	1,171	95.4	—	45	1,216
3	亶理・名取	960	1,007	861	85.5	—	12	873
4	仙台南	2,320	3,030	2,291	75.6	104	3	2,294
	中部南地区	3,280	4,037	3,152	78.1	104	15	3,167
5	仙台北	2,720	3,553	2,704	76.1	—	3	2,707
6	塩 釜	1,040	1,162	1,016	87.4	—	6	1,022
7	黒 川	480	414	410	99.0	—	0	410
	中部北地区	4,240	5,129	4,130	80.5	—	9	4,139
8	大 崎	1,240	1,003	925	92.2	96	16	941
9	遠 田	440	261	253	96.9	—	6	259
10	登 米	560	467	461	98.7	—	2	463
11	栗 原	520	363	338	93.1	—	22	360
	北部地区	2,760	2,094	1,977	94.4	96	46	2,023
12	石 巻	1,440	1,200	1,150	95.8	—	44	1,194
13	本 吉	600	408	404	99.0	47	0	404
	東部地区	2,040	1,608	1,554	96.6	47	44	1,598
	総 計	13,760	14,095	11,984	85.0	247	159	12,143

※ 中高一貫教育進学者数は、連携型選抜合格者数と併設型中学校から併設型高校への進学者数を合わせたもの。第一次募集合格者数の内数である。

#### ④ 学科別出願倍率

H31は後期選抜, H24は一般入試

(単位:倍)

学 科		出願倍率				
		R5	R4	R3	H31	H24
1	普通	1.11	1.09	1.04	1.18	1.27
2	農業	0.83	0.84	0.79	1.13	0.94
3	工業	0.96	0.97	0.93	1.08	1.21
4	商業	0.87	0.79	0.73	0.95	1.28
5	水産	0.55	0.49	0.65	0.77	0.97
6	体育	0.85	0.93	0.96	1.28	1.54
7	英語	1.11	1.09	0.90	0.89	1.22
8	家庭	0.73	0.82	0.82	0.95	1.06
9	看護	1.20	1.45	1.15	1.50	1.50
10	理数	1.54	1.57	1.23	1.40	1.29
11	美術	1.60	1.18	0.93	1.45	1.00
12	総合	0.64	0.66	0.71	0.79	1.12
13	福祉	0.93	0.65	0.58	0.40	—
14	災害科学	0.95	0.98	1.38	1.04	—
15	探究	1.31	1.79	—	—	—
全日制課程		1.02	1.01	0.96	1.11	1.23
定時制課程		0.37	0.34	0.36	0.36	0.49

#### ⑤ 地区別出願倍率(全日制課程)

H31は後期選抜、H24は一般入試

(単位:倍)

地 区	出願倍率				
	R5	R4	R3	H31	H24
南部地区	0.85	0.76	0.76	0.84	0.96
中部南地区	1.23	1.20	1.15	1.30	1.46
中部北地区	1.21	1.20	1.14	1.39	1.48
北部地区	0.76	0.78	0.73	0.78	0.97
東部地区	0.79	0.80	0.78	0.84	0.98
総 計	1.02	1.01	0.96	1.11	1.23

#### ⑥ 出願状況から見た全県一学区化に伴う地区外受験状況について

※数値は総受験者に対する各地区外受験者数の割合(%), H31は後期選抜, H24は一般入試

全体推移		県内一学区(H22~)				
		第一次募集制			前期・後期制	一般入試制
		R5	R4	R3	H31	H24
地区外受験者の割合		16.9%	16.6%	17.0%	18.0%	14.5%
内訳	1 中部南北地区間	10.3%	10.1%	10.3%	10.9%	8.7%
	2 中部地区と他地区間	5.7%	5.8%	5.9%	6.3%	5.0%
	3 中部地区以外の地区間	0.9%	0.7%	0.8%	0.8%	0.8%

## ⑦ 令和5年度公立高等学校入学者選抜学力検査の分析結果について

### 1 目 的

- (1) 検査問題の妥当性を検証し、今後の内容・形式等の改善に役立てる。
- (2) 受験者の学習成果の実態を明らかにし、県下中学校の学習指導上の課題を考察し、改善の指針を示す。

### 2 学力検査の実施教科

国語、社会、数学、理科、英語

### 3 分析結果（全日制課程受験者）

#### (1) 平均点について

教 科	国語	社会	数学	理科	英語	総点	受験者数
平 均	70.9 (58.0)	68.0 (57.3)	45.6 (58.2)	58.8 (58.9)	57.1 (54.7)	300.4 (287.0)	13,704 人 (13,518 人)

※（ ）は昨年度の値

#### (2) 得点分布

別冊 3～4 ページに記載のとおり

#### (3) 各教科の概況

全日制課程の学校・学科の中から、学力検査総点の受験者平均点を基にして 50 学科を抽出、さらに調査書総点ごとのバランスに留意して合計 400 人の答案を抽出し、教科ごと、小問ごとにその状況を分析考察した。

教科	概 況
国語	話合いの状況を捉えることや、情報と情報との関係の表し方を理解し使うことはできるが、描写を基に場面展開や登場人物の心情変化を捉えたり、読み手の立場に立って文章を整えたりすることに課題がある。
社会	基礎的・基本的な知識や、個々の資料から情報を読み取る力は身に付いているが、事象を多面的・多角的に考察する力や、複数の資料から読み取った情報を関連付けて、適切に表現する力に課題が見られた。
数学	計算についての基礎的・基本的な知識・技能の定着は見られるものの、問題文から条件を見だし数学的に表現する力、根拠を明らかにしながら、論理的に筋道を立てて表現する力に課題が見られた。
理科	基本的な知識及び観察・実験に関する技能は身に付いているが、観察・実験で得られた結果を比較し、相違点などを説明したり、考察したことを科学的な用語を用いて説明したりすることに課題が見られた。
英語	短い説明や会話から必要な情報を聞き取ったり、文章を読んで大まかな流れを捉えたりすることはできているが、会話の流れに沿って応答したり、文章の要点を的確に読み取ったりすることに課題がある。

各教科 共通 (得点率・ 無答率)	基礎的・基本的な知識・技能を問う問題の得点率は高く、学びの成果がうかがえる。一方で、複数の情報を比較したり関連付けたりして考察する問題や、論理的に思考し、その考えを文章等で表現する問題においては、得点率が低く、無答率も高い傾向がある。
----------------------------	---

※無答率：解答欄が空白であったものの割合

## 令和6年度公立高等学校入学者選抜について

### ① 募集定員

		令和6年度	令和5年度	増減
全日制課程＋定時制課程		14,600	14,720	▲ 120
	全日制課程	13,640 ※1 ※2	13,760 ※1 ※2	▲ 120 ※3
	定時制課程	960	960	0
通信制課程（美田園高校）		500	500	0
	一期入学者選抜	450	450	0
	二期入学者選抜	50	50	0

※1： 全日製の第一次募集の募集定員には、併設型及び連携型中学校からの入学予定者282人を含む。

※2： 全国募集選抜は定員の外数とし、南三陸高等学校で12人程度、中新田高等学校で5名程度の募集である。

※3： 定数減の内訳

- ① 亙理高等学校商業科の募集停止による、40人の減。
- ② 鹿島台商業高等学校商業科1学級減による、40人の減。
- ③ 涌谷高等学校普通科1学級減による、40人の減。

### ② 日程等

第一次募集・連携型選抜・全国募集選抜 ※4 ※5		実施する検査等
本試験	令和6年3月 5日（火）	○ 5教科の学力検査（国語・社会・数学・英語・理科） ○ 学校によっては面接・実技・作文のいずれかを実施
追試験 ※6	令和6年3月 8日（金）	○ 本試験に準じる
合格発表	令和6年3月14日（木）	
第二次募集 ※7		実施する検査等
検査日	令和6年3月21日（木）	○ 学力検査、面接、実技、作文のいずれか1つ又は複数を実施 ○ 学力検査を実施する場合は、国語・数学・英語のうち1教科以上を実施
合格発表	令和6年3月21日（木） もしくは22日（金）	○ 合格発表の日程については、実施校で定め、後日公表する

※4： 連携型選抜については、連携型中高一貫教育を行っている南三陸町内の2中学校（志津川中、歌津中）の生徒を対象として、南三陸高等学校において実施。

※5： 全国募集選抜については、南三陸高等学校、中新田高等学校において実施。

※6： やむを得ない事由で、本試験を受験できなかった生徒を対象として実施。

※7： 第一次募集に合格していない生徒等を対象として、合格者数が募集定員に満たない高校において実施。



## 「求める生徒像」の改善の方向性について

### ○ 「求める生徒像・選抜方法一覧」に見られる課題

#### 1 「求める生徒像」の分かりにくさ

(1) どの高校にも共通するような内容が多く、高校ごとの違いがあまり読み取れない。

例えば、「志望動機が明確である生徒」、「学校生活に意欲的に取り組む生徒」といった内容は、多くの高校の「求める生徒像」に見られるものであるが、ある意味「当たり前」のことであり、その高校の特色を反映しているとは言い難い。高校ごとの違いが読み取りにくいいため、中学生が進路選択の際に用いる資料として、十分な役割を果たすことができていない。

(2) 具体性に乏しく、どのような資質・能力を育ててきた生徒を求めているのかが分からない。

上記(1)で例示したような普遍的・一般的な表現が、多くの高校の「求める生徒像」に用いられており、どのような場面で、どのような力を発揮できる生徒を求めているのか、具体的には伝わってこない。

#### 2 特色選抜の分かりにくさ

特色選抜は、学力検査点と調査書点等の合計点を基に、調査書の記載事項も用いて、各高校が自校の「求める生徒像」に照らして総合的に審査する選抜だが、各高校が「求める生徒像」をどのように特色選抜の選抜方法に反映させているのか、その繋がりが分かりにくい。「この高校では、このような力を有する生徒を重視するから、このような配点になっている」、「求める生徒像に照らすと、調査書のこのような記載事項が重視される」といったことが、現状では分かりにくい。

#### 3 「求める生徒像・選抜方法一覧」冊子の分かりにくさ、使いにくさ

(1) 体裁やレイアウトに見にくさがあり、紙面から情報が読み取りにくい。

紙面のレイアウトや、使用する文字のフォント・大きさなども、分かりにくさの要因になっているのではないかと。特に、2(1)に挙げた「特色選抜の内容の分かりにくさ」については、紙面上での提示のしかたにも工夫の余地があるのではないかと。

(2) 学校の特色が読み取りにくく、中学生や保護者、中学校の教員にとっては活用しにくい。

「求める生徒像」と選抜方法に焦点を当てた紙面になっているが、中学校での面談や進路学習において、より活用しやすいものとする方策はないか。多面的・総合的に進路先を検討できるよう、学校情報などへのリンクがあるとよいのではないかと。

#### 専門委員会が出された意見

- ・ 特色選抜について受験生が知りたいのは、得点の倍率の数値よりも、教科によって軽重があるかということなので、これが分かりやすい形で示されるとよい。
- ・ 得点の倍率については、中学校現場では重視しているし、特に成績上位の生徒は、受験校を選ぶ際に得点の倍率を確認している。三者面談等でも確認・活用できる資料となればなお良い。
- ・ 「求める生徒像・選抜方法一覧」冊子の巻末にある「選抜方法等一覧」が、特色選抜の内容について複数の学校を比較するには有効だが、あまり活用されていないので、この見方についても中学校にアピールする必要がある。
- ・ 各学校のページでは、学校ごとの違いが比較しにくいので、巻末資料「選抜方法等一覧」は、マークなどを活用するなどして分かりやすく調整するとよい。

## 課題1 「求める生徒像」の分かりにくさ

- (1) どの学校にも共通するような内容が多く、学校ごとの違いがあまり読み取れない。
- (2) 具体性に乏しく、どのような資質・能力を育ててきた生徒を求めているのかが分からない。

### A 高等学校

求 め る 生 徒 像
<p>本校の校訓は「質実剛健」「穏健着実」で、総合学科の特色ある多様な教科・科目の選択履修を通じた教育によって、地域社会の将来を託すにふさわしい、「生きる知恵」にあふれた人材の育成を目指しています。</p> <p>また、生徒の学習意欲を喚起し、主体的・対話的で深い学びにより学力向上を図っています。</p> <p>本校の校訓に共感し、勉学に向上心をもって取り組むと共に明確な進路意識をもち、進路を実現しようと努力する、次の1～5の全てに当てはまる生徒を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校を志望する理由が明確である生徒</li> <li>2 基本的な生活習慣が身に付いており、豊かな人間性を磨くために努力のできる生徒</li> <li>3 進路実現に向かって継続的に努力し、積極的にインターンシップ等の体験活動に取り組もうとする生徒</li> <li>4 何事にも真剣に取り組む、日々の授業を大事にする生徒</li> <li>5 部活動、校外でのスポーツ活動または文化活動で優れた能力を有し、入学後も継続して活動する意欲のある生徒</li> </ol>

比較

### B 高等学校

求 め る 生 徒 像
<p>本校では、校訓である「志」(自ら努力する姿勢が自信を生み出す)・「和」(思いやりの気持ちをもつこと)・「道」(人としてあるべき道を自分らしく歩くこと)を体現する生徒の育成を目指しています。また、「地域に学び、地域に育ち、地域を担う」を合言葉に、地域協働の学習活動を推進し、社会で幅広く活躍できる生徒の育成に努めています。</p> <p>入学後も目的意識をもって学校生活を送り、授業・部活動・行事等に主体的に取り組む、次の1～4の全てに当てはまる生徒を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校を志望する意志が強く、入学後も進路実現にむけて努力する生徒</li> <li>2 日々の授業を大切に、積極的に学習に取り組む生徒</li> <li>3 基本的な生活習慣が身に付いており、集団の和を大切に学校生活を送る生徒</li> <li>4 本校入学後も部活動、生徒会、ボランティア活動などの文化的・体育的活動に主体的に取り組む生徒</li> </ol> <p>特に、特色選抜においては、上記の3及び4の全てに当てはまる生徒を重視します。</p>

全く異なる2つの高校だが、「求める生徒像」に大きな違いがない。

表現に具体性がない。

## 改善の手立て (1)

冒頭の学校紹介文の部分は、中学生に学校の魅力をアピールすることを意識し、学校で力を入れている取組なども用いて、平易な言葉を用いて具体的に記載する。

【例】 本校は、「生徒一人ひとりを尊重し、がんばりを全力で応援すること」をモットーとしています。授業では、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を目指すとともに、地域社会と連携して「けやき町を元気に！」をテーマにした探究的な学習活動を行っており、生徒は生き生きと活動しながら、社会で生きて働く力を伸ばしています。部活動や生徒会活動も盛んで… (300字程度を上限とする)

## 改善の手立て (2)

「求める生徒像」をできるかぎり明確化し、学校の特色等も踏まえて文章化する。  
中学校での学習や生活で育ててきた資質・能力をイメージして、具体的に、平易な言葉で表現する。

### 【例1】

「本校を志望する理由が明確である生徒」

→ 地域社会の発展に貢献することへの意欲があり、本校で学ぼうとする明確な理由を持つ生徒。

### 【例2】

「日々の授業を大切に、積極的に学習に取り組む生徒」

→ 日々の授業を基礎として、地域と協働する探究的学習活動に積極的に取り組むことができる生徒。

### 【例3】

「基本的な生活習慣が身に付いており、集団の和を大切に学校生活を送る生徒」

→ 基本的な生活習慣が身に付いており、積極的に周囲とコミュニケーションを図り、協力することができる生徒



## 課題2 特色選抜の分かりにくさ

「求める生徒像」と特色選抜の関係性が分かりにくい。

### C 高等学校

- 1 本校への入学を強く希望し、将来の夢の実現に向けて、意欲的に学習活動に取り組む生徒
- 2 基本的生活習慣を身に付け、積極的に他者とのコミュニケーションを図り、互いに高め合う意欲のある生徒
- 3 校内活動(生徒会活動、委員会活動、学校行事等)や校外活動(社会活動、ボランティア活動、留学等)などの多くの経験とおし、広い視野と主体性をもっている生徒
- 4 校内外の活動で、リーダーシップを発揮して活動した実績をもち、今後も活躍が期待できる生徒
- 5 文化的・体育的活動等で顕著な成績を残し、入学後も継続して活躍が期待できる生徒

特に、特色選抜においては、上記の4及び5のいずれかに当てはまる生徒を重視します。



特色選抜で重視する項目を示しているが、求める生徒像と特色選抜の欄が離れているため、特色選抜との繋がりが気付かれにくい。

国語・数学・英語の学力検査点を2.0倍にすることから、これら3教科の学力を重視していることがうかがえる。

⋮

しかし、倍率の表示からだけで、中学生や保護者はしつかりと読み取れるだろうが。

特色選抜	48人 (募集定員の20%)
<b>I 配点</b>	
1 調査書 135点	
・ 国語, 数学, 社会, 英語, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 技術家庭 .....全学年の評定を1.0倍にする	
2 学力検査 800点	
・ 国語, 数学, 英語.....得点を2.0倍にする ・ 社会, 理科.....得点を1.0倍にする	
合計 935点	
<b>II 選抜方法</b>	
・ 審査は、学力検査点と調査書点の合計点上位の者から、特色選抜で選抜する48人の130%の範囲に含まれる者を対象として行う。	
・ 学力検査点と調査書点を合計した点数を基に、調査書の記載事項(評定以外の特別活動の記録などの資料)も用いて、求める生徒像に照らして総合的に審査し、選抜する。	

### D 高等学校

- 1 日々の学習をおとして、思考力・判断力を磨き、状況の変化に柔軟に対応できる高い知性を身に付けようとする生徒
- 2 豊かな情操と寛容性を備え、知・徳・体のバランスの取れた人間としての成長を目指し切磋琢磨することのできる生徒
- 3 自らの将来について具体的な目標をもち、その実現のために学習や部活動、特別活動等に主体的・意欲的に取り組む意志のある生徒
- 4 自ら課題を発見し、その解決のために、他者と協働しながら継続的に探求しようとする生徒
- 5 地域に対する感謝の気持ちをもつとともに、積極的に地域・社会に貢献しようとする生徒



D高等学校では、「求める生徒像」1～5の中で、特に特色選抜において重視する項目を定めていないため、つながりが分かりにくい。

「特色選抜では、調査書の記載事項も用いて、求める生徒像に照らして総合的に審査し、選抜する」とあるが、具体的にどのような点を重視するのかが記載されていないと、中学生には伝わりにくい。

特色選抜	56人 (募集定員の20%)
<b>I 配点</b>	
1 調査書 135点	
・ 国語, 数学, 社会, 英語, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 技術家庭 .....全学年の評定を1.0倍にする。	
2 学力検査 500点	
・ 国語, 数学, 社会, 英語, 理科.....得点を1.0倍にする。	
合計635点	
<b>II 選抜方法</b>	
・ 審査は、学力検査点と調査書点の合計点上位の者から、特色選抜で選抜する56人の200%の範囲に含まれる者を対象として行う。	
・ 学力検査点と調査書点を合計した点数を基に、調査書の記載事項(評定以外の特別活動の記録などの資料)も用いて、求める生徒像に照らして総合的に審査し、選抜する。	

「特色選抜で選抜する56人の200%の範囲に含まれる者」が実際には何人なのか分かりにくい。

## 改善の手立て

調査書点や学力検査点以外の部分をより分かりやすく明示するため、どのような資質・能力を有する生徒を重視し評価するのかということ、特色選抜欄の冒頭に、簡潔な文章で記載する。

**記載場所**  
 「求める生徒像」の中で重視する項目を示す。  
 配点や得点の倍率に反映させている重視事項を示す。

### 特色選抜

48人（募集定員の20%）

**上記「求める生徒像」の4及び5のいずれかに当てはまる生徒を重視します。また、学力検査では、特に国語、数学、英語を重視します。**

**I 配点**

1 調査書 135点  
 ・ 国語、数学、社会、英語、理科、音楽、美術、保健体育、技術家庭  
 ……全学年の評定を1.0倍にする

2 学力検査 800点  
 ・ 国語、数学、英語……得点を2.0倍にする  
 ・ 社会、理科……得点を1.0倍にする

合計 935点

**II 選抜方法**

・ 審査は、学力検査点と調査書点の合計点上位の者から、特色選抜で選抜する48人の130%の範囲に含まれる者(62人)を対象として行う。

・ 学力検査点と調査書点を合計した点数を基に、調査書の記載事項(評定以外の特別活動の記録などの資料)も用いて、求める生徒像に照らして総合的に審査し、選抜する。

総合的に審査する際に重視する点が、「求める生徒像」を反映したものであることを分かりやすく示す。これにより、中学生が、日々の学習や生活において、どのような点を目標に励めばよいのかが、より明確になる。

審査対象者の人数を明確に示す

## 高校に求める検討の主な視点

- 「求める生徒像」と特色選抜の配点割合等とは、整合がとれているか。
- 「求める生徒像」で特に示した項目は、特色選抜によって適切に見取ることが可能な内容か。
- 適切な審査・選抜（見取り）を行うために、面接・実技・作文を実施する必要はないか。

令和7年度入試用「求める生徒像・選抜方法一覧」作成に向け、各高校において、「求める生徒像」等と特色選抜の内容の、一体的な確認・検討が必要である。

## 事務局で行う検討

「求める生徒像・選抜方法一覧」冊子の巻末資料「選抜方法等一覧」の表は、数字等の列挙により情報が読み取りづらい。特色選抜における調査書や学力検査の換算点の欄を中心に、学校ごとの倍率設定の違い等がより分かりやすくなるように調整する。

選抜方法等一覧の一部（現行）

学校名	学科・コース	募集定員	選抜順序	選抜人数等				共通選抜(比重)		特色選抜(配点)			〈調査書の換算点〉評定「5」を何点に変換するか									
				共通選抜		特色選抜		学力検査	調査書	学力検査	学校独自検査			国語		社会		数学		理科		英語
				割合	人数	割合	人数				面接	実技	作文	1	2	3	1	2	3	1	2	3
34 多賀城	普通科	240	特色	60%	144	40%	96	6	4	195	500	—	—	—	1	2	3	1	2	3	1	2
	災害科学科	40	特色	60%	24	40%	16	6	4	195	600	△	—	—	1	2	3	1	2	3	1	2
35 松島	普通科	80	共通	60%	48	40%	32	5	5	97.5	250	100	—	—	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
	観光科	80	共通	60%	48	40%	32	5	5	97.5	250	100	—	—	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
36 利府	普通科	200	共通	70%	140	30%	60	6	4	195	500	—	—	—	5	5	5	5	5	5	5	5
	スポーツ科学科	80	共通	10%	8	90%	72	5	5	225	250	—	250	—	5	5	5	5	5	5	5	5

### 課題3 「求める生徒像・選抜方法一覧」冊子の分かりにくさ、使いにくさ

- (1) 体裁やレイアウトに見にくさがあり、紙面から情報が読み取りにくい。
- (2) 学校の特色が読み取りにくく、中学生や保護者、中学校の教員にとっては活用しにくい。

第一次募集（選抜方法等）		
選抜順序	共通選抜 → 特色選抜	面接・実技・作文のうち実施するもの
第2志望とすることができる学科・コース	農業技術科（農業科学コース、農業土木コース）	なし
<b>共通選抜</b>	<b>84人（募集定員の70%）</b>	
学力検査：調査書	6：4	
<small>学力検査点(500点満点)と調査書点(195点満点)の満点を原点とした相関図を用いて選抜する。相関図での学力検査点と調査書点の比重は6:4とする。  <small>※調査書点：「5教科(国・数・社・英・理)の各学年の評定の合計」+「4教科(音・美・保体・技家)の各学年の評定の合計×2」</small> </small>		
<b>特色選抜</b>	<b>36人（募集定員の30%）</b>	
<b>I 配点</b> <b>1 調査書 390点</b> ・国語、数学、社会、英語、理科……全学年の評定を2.0倍にする ・音楽、美術、保健体育、技術家庭……全学年の評定を4.0倍にする <b>2 学力検査 500点</b> ・国語、数学、社会、英語、理科……得点を1.0倍にする 合計 890点 <b>II 選抜方法</b> ・審査は、学力検査点、調査書点の合計点上位の者から、特色選抜で選抜する36人の150%の範囲に含まれる者を対象として行う。 ・学力検査点、調査書点を合計した点数を基に、調査書の記載事項(評定以外の特別活動の記録などの資料)も用いて、求める生徒像に照らして総合的に審査し、選抜する。		

表の縦ラインが揃っていないことが、視覚的に障害となっている。

表ではなく、箇条書きの文章で整理しているが、学校により配置がまちまちで、読みにくい。

### 改善の手立て（1）

表のつくりを整理・修正し、視覚的な見やすさを向上させる。文字には UD フォントを用いて、さらに視認性を高める。  
 ※ UD フォント：ユニバーサルデザインに対応し、年齢や文化、身体的障害などに関わらず、誰にでも読みやすいように作られているフォント。



第一次募集（選抜方法等）		
選抜順序	共通選抜 → 特色選抜	面接・実技・作文のうち実施するもの
第2志望とすることができる学科・コース	農業技術科（農業科学コース、農業土木コース）	なし
<b>共通選抜</b>	<b>84人（募集定員の70%）</b>	
学力検査：調査書	6：4	
<small>学力検査点(500点満点)と調査書点(195点満点)の満点を原点とした相関図を用いて選抜する。相関図での学力検査点と調査書点の比重は6:4とする。  <small>※調査書点：「5教科(国・数・社・英・理)の各学年の評定の合計」+「4教科(音・美・保体・技家)の各学年の評定の合計×2」</small> </small>		
<b>特色選抜</b>	<b>36人（募集定員の30%）</b>	
上記「求める生徒像」の4及び5のいずれかに当てはまる生徒を重視します。また、中学校において日々の学習に努力し、良好な学習成績を収めた生徒を重視します。 <b>I 配点</b> <b>1 調査書 390点</b> 国語、数学、社会、英語、理科 : 全学年の評定を2.0倍にする 音楽、美術、保健体育、技術家庭 : 全学年の評定を4.0倍にする <b>2 学力検査 500点</b> 国語、数学、社会、英語、理科 : 得点を1.0倍にする <合計> 890点 <b>II 選抜方法</b> ・審査は、学力検査点、調査書点の合計点上位の者から、特色選抜で選抜する36人の150%の範囲に含まれる者(54人)を対象として行う。 ・学力検査点、調査書点を合計した点数を基に、調査書の記載事項(評定以外の特別活動の記録などの資料)も用いて、求める生徒像に照らして総合的に審査し、選抜する。		

縦ラインを揃えらるとともに、意味上の区切りが明確になるように表を整理。

表に近い体裁に整理し、十分な余白を持たせる。全ての学校が同一の体裁となる。

## 改善の手立て（2）

面談や進路学習において活用できるよう、志望校の検討に役立つ学校情報へのリンクを追加する。

第一次募集（選抜方法等）		
選抜順序	共通選抜 → 特色選抜	面接・実技・作文のうち実施するもの
第2志望とすることができる学科・コース	農業技術科（農業科学コース、農業土木コース）	なし
<b>共通選抜</b>	<b>84人（募集定員の70%）</b>	
学力検査：調査書	6：4	
学力検査点（500点満点）と調査書点（195点満点）の満点を原点とした相関図を用いて選抜する。相関図での学力検査点と調査書点の比重は6：4とする。		
<b>特色選抜</b>	<b>36人（募集定員の30%）</b>	
上記「求める生徒像」の4及び5のいずれかに当てはまる生徒を重視します。また、中学校において日々の学習に努力し、良好な学習成績を取った生徒を重視します。		
I 配点		
1 調査書	390点	
国語、数学、社会、英語、理科		: 全学年の評定を2.0倍にする
音楽、美術、保健体育、技術家庭		: 全学年の評定を4.0倍にする
2 学力検査	500点	
国語、数学、社会、英語、理科		: 得点を1.0倍にする
3 面接	200点	
<合計>	890点	
II 選抜方法		
<ul style="list-style-type: none"> <li>審査は、学力検査点、調査書点の合計点上位の者から、特色選抜で選抜する36人の150%の範囲に含まれる者（54人）を対象として行う。</li> <li>学力検査点、調査書点を合計した点数を基に、調査書の記載事項（評定以外の特別活動の記録などの資料）も用いて、求める生徒像に照らして総合的に審査し、選抜する。</li> </ul>		
		学校情報はこちら
学校ホームページ	公立高校ガイドブック	
		

当該高校のホームページと、公立高校ガイドブックにアクセスできる二次元コードを付加する。

○ 「求める生徒像・選抜方法一覧」様式 【現行】

学校名	宮城県けやき高等学校	課程	全日制	学科 (コース・部)	普通科	募集定員	200人
-----	------------	----	-----	---------------	-----	------	------

## 求 め る 生 徒 像

本校は、多様な進路希望を持った生徒の自己実現を可能にする学校です。基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させて学力の伸長を図るとともに、特別活動等への積極的な参加を促すことによりバランスのとれた生徒の育成に努めています。  
また、保護者、地域社会から支持され信頼される開かれた学校です。  
豊かな人間性とたくましさを持ち、自主的・自律的・意欲的に生き生きと活動する、次の1～5のいずれかに当てはまる生徒を求めます。

- 1 本校で学ぼうとする理由が明確で、自主・自律の精神で、学校生活に意欲的に臨む生徒
- 2 基本的な生活習慣が身に付いており、豊かな人間性を磨くために努力できる生徒
- 3 進路実現に向かって継続的に努力し、積極的にインターンシップ等の体験活動に取り組もうとする生徒
- 4 何事にも真剣に取り組む、日々の授業を大事にする生徒
- 5 部活動、校外でのスポーツ活動で優れた能力を有し、入学後も継続して活動する意欲のある生徒

特に、特色選抜においては、上記4及び5のいずれかに当てはまる生徒を重視します。

## 第 一 次 募 集 ( 選 抜 方 法 等 )

選抜順序	共通選抜	→	特色選抜	面接・実技・作文のうち 実施するもの
第2志望とすることができる 学科・コース	商業科			面接
<b>共 通 選 抜</b>	140人 (募集定員の70%)			I 面接 1 形態 個人面接 2 時間 10分程度 3 内容 (1) 志望動機 (2) 中学校での活動状況 (3) 将来の進路志望 (4) その他 4 観点 (1) 態度 50点 (2) 表現力等 150点  ※面接については、2日目に実施する。
学力検査:調査書	5 : 5			
学力検査点(500点満点)と調査書点(195点満点)の満点を原点とした相関図を用いて選抜する。相関図での学力検査点と調査書点の比重は5:5とする。 ※調査書点:「5教科(国・数・社・英・理)の各学年の評定の合計」+「4教科(音・美・保体・技家)の各学年の評定の合計×2」				
<b>特 色 選 抜</b>	60人 (募集定員の30%)			
I 配点 1 調査書 390点 ・ 国語, 数学, 社会, 英語, 理科 ……全学年の評定を2.0倍にする ・ 音楽, 美術, 保健体育, 技術家庭…全学年の評定を4.0倍にする 2 学力検査 375点 ・ 国語, 数学, 社会, 英語, 理科 ……得点を0.75倍にする 3 面接 200点 合計 965点  II 選抜方法 ・ 審査は、学力検査点、調査書点及び面接の得点の合計点上位の者から、特色選抜で選抜する60人の120%の範囲に含まれる者を対象として行う。 ・ 学力検査点、調査書点及び面接の得点を合計した点数を基に、調査書の記載事項(評定以外の特別活動の記録などの資料)も用いて、求める生徒像に照らして総合的に審査し、選抜する。				

## 第 二 次 募 集 ( 選 抜 方 法 等 )

I 配点	面接・実技・作文
1 調査書 225点 ・ 国語, 数学, 英語 ……全学年の評定を1.0倍にする ・ 社会, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 技術家庭…全学年の評定を2.0倍にする 2 学力検査 300点 ・ 国語, 数学, 英語(各教科100点満点) 3 面接 200点 合計 725点  II 選抜方法 上記Iを基に、総合的に審査し、選抜する。	I 面接 1 形態 個人面接 2 時間 10分程度 3 内容 第一次募集と同じ 4 観点 第一次募集と同じ



○「求める生徒像・選抜方法一覧」様式【改善案】

学校名	宮城県けやき高等学校	課程	全日制	学科 (コース・部)	普通科	募集定員	200人
-----	------------	----	-----	---------------	-----	------	------

## 求める生徒像等

**【学校紹介】**

本校は、「生徒一人ひとりを尊重し、がんばりを全力で応援すること」をモットーとしています。授業では、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図るとともに、地域社会と連携して「けやき町を元気に！」をテーマにした探究的な学習活動を行っており、生徒は生き生きと活動しながら、社会で生きて働く力を伸ばしています。







部活動や生徒会活動も盛んで、スポーツや文化的活動、ボランティア活動など様々な分野で、多くの生徒が放課後も意欲的に活動している、活気に満ちた学校です。

**【求める生徒像】**

自分の目標に向かって努力することができ、コミュニケーションを大切にしながら、様々なことに意欲的に挑戦する、次の1～5のいずれかに当てはまる生徒を求めます。

- 1 地域社会の発展に貢献することへの意欲があり、本校で学ぼうとする明確な理由を持つ生徒
- 2 日々の授業を基礎として、地域と協働する探究的学習活動に積極的に取り組むことができる生徒
- 3 多様な価値観を尊重し、他者と協力してより良い人間関係を築くことができる生徒
- 4 部活動、校外でのスポーツ活動で優れた能力を有し、入学後も継続して活動する意欲のある生徒
- 5 部活動や特別活動などで、リーダーを務めた経験のある生徒

## 第一次募集（選抜方法等）

選抜順序	共通選抜 → 特色選抜	面接・実技・作文のうち実施するもの																				
第2志望とすることができる学科・コース	商業科	面接																				
<b>共通選抜</b>	<b>140人</b> (募集定員の <b>70%</b> )	I 面接 1 形態 個人面接 2 時間 10分程度 3 内容 (1)志望動機 (2)中学校での活動状況 (3)将来の進路希望 (4)その他 4 観点 (1)態度           50点 (2)表現力等   150点  ※面接は、2日目に実施する。																				
学力検査:調査書	5 : 5																					
学力検査点(500点満点)と調査書点(195点満点)の満点を原点とした相関図を用いて選抜する。相関図での学力検査点と調査書点の比重は5:5とする。																						
<b>特色選抜</b>	<b>60人</b> (募集定員の <b>30%</b> )	<b>学校情報はこちら</b>  <table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 50%;">                             学校 ホームページ   </td> <td style="width: 50%;">                             公立高校 ガイドブック   </td> </tr> </table>	学校 ホームページ 	公立高校 ガイドブック 																		
学校 ホームページ 	公立高校 ガイドブック 																					
上記「求める生徒像」の4及び5のいずれかに当てはまる生徒を重視します。また、中学校において日々の学習に努力し、良好な学習成績を収めた生徒を重視します。																						
I 配点 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;"><b>1 調査書</b></td> <td style="width: 35%; text-align: right;"><b>390点</b></td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">国語、数学、社会、英語、理科</td> <td style="text-align: right;">:</td> <td>全学年の評定を2.0倍にする</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">音楽、美術、保健体育、技術家庭</td> <td style="text-align: right;">:</td> <td>全学年の評定を4.0倍にする</td> </tr> <tr> <td><b>2 学力検査</b></td> <td style="text-align: right;"><b>375点</b></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">国語、数学、社会、英語、理科</td> <td style="text-align: right;">:</td> <td>得点を0.75倍にする</td> </tr> <tr> <td><b>3 面接</b></td> <td style="text-align: right;"><b>200点</b></td> <td></td> </tr> <tr> <td><b>&lt;合計&gt;</b></td> <td style="text-align: right;"><b>965点</b></td> <td></td> </tr> </table>			<b>1 調査書</b>	<b>390点</b>		国語、数学、社会、英語、理科	:	全学年の評定を2.0倍にする	音楽、美術、保健体育、技術家庭	:	全学年の評定を4.0倍にする	<b>2 学力検査</b>	<b>375点</b>		国語、数学、社会、英語、理科	:	得点を0.75倍にする	<b>3 面接</b>	<b>200点</b>		<b>&lt;合計&gt;</b>	<b>965点</b>
<b>1 調査書</b>	<b>390点</b>																					
国語、数学、社会、英語、理科	:	全学年の評定を2.0倍にする																				
音楽、美術、保健体育、技術家庭	:	全学年の評定を4.0倍にする																				
<b>2 学力検査</b>	<b>375点</b>																					
国語、数学、社会、英語、理科	:	得点を0.75倍にする																				
<b>3 面接</b>	<b>200点</b>																					
<b>&lt;合計&gt;</b>	<b>965点</b>																					
II 選抜方法 ・ 審査は、学力検査点、調査書点の合計点上位の者から、特色選抜で選抜する60人の120%の範囲に含まれる者(72人)を対象として行う。 ・ 学力検査点、調査書点を合計した点数を基に、調査書の記載事項(評定以外の特別活動の記録などの資料)も用いて、求める生徒像に照らして総合的に審査し、選抜する。																						

## 第二次募集（選抜方法等）

I 配点	面接・実技・作文		
<b>1 調査書</b>	I 面接 1 形態 個人面接 2 時間 10分程度 3 内容 第一次募集と同じ 4 観点 第一次募集と同じ		
国語、数学、英語		:	全学年の評定を1.0倍にする
社会、理科、音楽、美術、保健体育、技術家庭		:	全学年の評定を2.0倍にする
<b>2 学力検査</b>		<b>300点</b>	
国語、数学、英語	:	各教科100点満点	
<b>3 面接</b>	<b>200点</b>		
<b>&lt;合計&gt;</b>	<b>725点</b>		
II 選抜方法 上記Iを基に、総合的に審査し、選抜する。			

# 岩ヶ崎高等学校

建学の精神 尚志育英



## 1 基本データ

創立：昭和16年  
 課程・学科：全日制課程・普通科  
 生徒数：89名  
 所在地：〒989-5351  
 栗原市栗駒中野愛宕下1-3  
 TEL：0228-45-2266  
 FAX：0228-45-2267

ホームページアドレス：  
<https://iwagasakikou.myswan.ed.jp>  
 電子メールアドレス：  
 iwagasakikou@od.myswan.ed.jp  
 主な交通機関：  
 市民バス（100円バス）「岩ヶ崎高校前」下車 徒歩1分

## 2 学校の特徴

### キャッチフレーズ

Heartful・Peaceful・Dreamful

愛情いっぱい、平和な、夢のある岩ヶ崎高校です。学習に落ち着いて取り組める環境で、是非夢をかなえましょう。

### (1) 学校の概要(沿革、環境、施設等)

本校は昭和16年に宮城県岩ヶ崎実科高等女学校として創立しました。その後、宮城県岩ヶ崎高等女学校を経て、昭和23年4月に男女共学の宮城県岩ヶ崎高等学校となり、現在に至っています。令和4年度に創立82周年を迎える伝統ある学校で、卒業生は13,539名にのぼり、各方面で活躍しています。

岩ヶ崎高等学校は宮城県第二の標高を誇る栗駒山(1,626m)を間近に望む栗原市栗駒地区にあります。校地内には、体育館、武道館の他、尚志館(合宿所)、育英館(音楽練習場)、等の施設が備わっています。冷暖房の完備した普通教室と視聴覚室は、課外授業や模擬試験等でも活用されており、快適な環境で学習ができます。

### (2) 教育方針

建学の精神「尚志育英」に則り、調和のある人間形成をめざし、次の目標達成に努めています。

#### ①心身の健康

清潔で健康な生活を心掛けるとともに、進んで心身を鍛え、明るく清く、どんな困難に出会ってもくじけない意志と体力を育む。

#### ②知性の伸長

広く調和のとれた教養を身に付けさせるとともに、青年の持つ無限の可能性を引き出し、伸ばしていく。

#### ③人格の尊重

正しく自己を愛し、他をも愛する豊かな愛情を持ち続け、互いに信頼しあえる誠実で頼もしい生徒を育てる。

### (3) 教育課程の特徴

岩ヶ崎高等学校はコース制を導入しており、多様な進路目標を持つ生徒一人ひとりの目標達成に必要な科目を無駄なく履修することができます。ただし、1学年では、文系、理系の両コースとも芸術科目以外は、全員が共通に学習します。2学年からは、文系教養コースと理系教養コースそれぞれの教育課程に基づいて学習します。

進路希望が変更となった場合は、1学年から2学年へ進級する際に、定員に余裕がある場合に限り、コース変更も可能です。

### (4) 行事・生徒会活動・部活動

岩ヶ崎高等学校は、生徒会活動や部活動が活発で、企画や運営も生徒の自主性や意見が尊重されており、一人ひとりの個性が発揮できる自由で伸び伸びとした校風を持っています。

行事としては、三大大行事として7月に球技大会、8月には岩高祭とよばれる文化祭、そして10月には強歩大会があります。保護者による豚汁提供もあり、昼食時に振舞われます。これを楽しみにしている生徒も少なくありません。

生徒会活動は校内に留まることなく、地域へのボランティア活動にも積極的に参加しています。夏にはくりこま山車まつりに踊り手や山車引きとして参加しています。冬にはイルミネーションドームを作製し、栗駒岩ヶ崎地区のイルミネーションイベントに参加しました。

部活動では、どの部も文武両道を目指し、日々活動に励んでいます。中でも剣道部は3年前、東北高等学校剣道選抜優勝大会に出場するなどめざましい活躍を見せました。今年は地域のニーズに応え、バドミントン部が新設されました。

また、体育館が新しくなり、明るいフロア、空間のもとで、活発に部活動が行われており、最近では男子バレー部が県新人大会でベスト8に入るなど、新体育館の効果が早くも現れています。また、卓球部も地区大会で上位入賞するなど活躍しています。さらに、陸上競技部では県新人大会やり投ベスト8に入賞するなど屋外競技も活躍を見せています。文化部でも、最近、科学部が宮城県生徒理科研究発表会物理部門において最優秀賞に入賞する活躍を見せました。

### (5) 卒業生の進路状況

#### 進路一覧

(過去3年間、進学者・就職者数)

進路	R4	R3	R2
国公立大学	16	8	6
国公立短大	2	4	2
私立大学	23	23	24
私立短大	4	1	3
専各学校	10	17	7
就職	7	4	3
その他	1	0	3
卒業生計	63	57	48

主な進路先(令和4年3月卒業生)

( )内は人数 (1)は省略

#### <国公立大学>

岩手大学(3)、福島大学(2)、室蘭工業大学、宮城大学(3)、名寄市立大学(2)、釧路公立大学、青森県立保健大学、青森公立大学、秋田県立大学、高崎経済大学

#### <国公立短大>

岩手県立宮古短期大学部、会津大学短期大学部

#### <私立大学>

宮城学院女子大学(4)、東北福祉大学(3)、東北文化学園大学(3)、東北学院大学(2)、東北工業大学、東北生活文化大学、岩手保健医療大学、北里大学、日本大学、専修大学、文教大学、東京家政学院大学、帝京平成大学、嘉悦大学、神奈川大学

#### <私立短大>

日本赤十字秋田短期大学、聖和学園短期大、仙台青葉学院短期大(2)

#### <専修各種学校>

岩手県立一関高等看護学院、仙台徳洲看護専門学校、花壇自動車学校、東京法律専門学校仙台校、宮城調理製菓専門学校、東京電子専門学校、他

#### <就職>

国家公務員(税務)、栗原市職員(行政)(2)、登米市職員(行政)、大崎市職員(消防)、東日本リサイクルシステムズ株式会社、他



### 3 学校魅力発信

#### (1) 本校生徒の活躍

## 地域とコラボ 探究活動



2年生の総合的な探究の時間では、「くりはら魅力化プロジェクト」を実施しました。地域の良さを見つけ、それをどのようにしたら多くの人に広め、地域をより魅力的にできるかを、生徒自らが考え、実践する活動です。地元の飲食店と共同で、地域の食材を生かした新メニューの開発に挑戦し、実際に期間限定でランチメニューを提供したグループもあります。これからも、地域をより魅力的にできる方法を考え、実践していきたいと思います。

## HLABサマースクールへ参加

令和4年8月、HLAB MIYAGI-ONAGAWA サマースクールに本校から2名の生徒が参加しました。このサマースクールは、高校生と年齢が近い大学生とセミナーやワークショップなどを行いながら、寝食をともにして学び合う1週間のプログラムになっています。中でもセミナーは海外大学の大学生が英語で行う少人数授業となっており、英語力を向上させる良い機会になっています。本校では、参加希望生徒に後援会から助成を行うなど、生徒への支援を行っています。今後も様々な支援を継続しながら、より魅力的な学校づくりを進めていきたいと思います。

#### 参加生徒 狩野柚花さん（栗原西中出身）の感想

サマースクールに参加して視野が広がりました。様々な場所で様々な経験を積んだ同年代の方と交流することで物事に対する視野が広がりました。また、ありのままの自分にも出会うことができました。この経験を生かし、私自身、異文化交流ができる場をつくり提供していきたいです。

#### 参加生徒 高橋美遥さん（栗駒中出身）の感想

サマースクールに参加する前は、自分の英語力に自信がなく、不安でした。しかし、オープンな雰囲気のおかげで臆さずに発言することができ、英語を話すことへの抵抗がなくなり、年齢の近い参加者同士では将来の話を通して仲良くなりました。この企画への参加は多くのことを学ぶ貴重な機会となりました。

#### (2) 主な学校行事

## 球技大会



例年7月に、2日間にわたり球技大会が開催されます。クラス毎にさまざまな競技で競い合い、クラスの中だけでなく、先輩と後輩の仲も深まる行事です。写真は「ポッチャ」競技の様子です。最後の一球で大逆転が起こる、非常に盛り上がる競技の一つです。



## 岩高祭

令和4年8月26日（金）、27日（土）に岩高祭（文化祭）が盛大に開催されました。27日には家族限定ではありますが、3年ぶりに一般公開を実施し、生徒の活動の様子を見ていただくことができました。コロナ禍により中止していた模擬店（食品販売）も復活し、本校生徒や来校者から大好評でした。写真は岩高祭名物の垂れ幕です。クラスや文化部それぞれが全長6mの垂れ幕を製作し、全ての垂れ幕がそろった様子は圧巻です。今年はぜひ、岩高祭にお越しください。

## 強歩大会



強歩大会は40年ほど続いている伝統行事で、例年10月に実施しています。学校を発着点とし、周辺地域を經由する22kmのコースを各自思い思いのペースで歩きます。途中の公園で昼食を取り、ピクニックをしているように過ごす生徒もいれば、スタートからゴールまで黙々と走ったり歩き続けたりする生徒もいます。ゴールした瞬間は大きな達成感を感じることができる行事でもあります。

#### (3) 学校制服紹介



男子は詰め襟標準学生服、女子は紺色のブレザーです。伝統を引き継ぎながら、生地には撥水防臭・抗菌・ウォッシュブル効果が入った制服になっています。令和4年度から、防寒対策などを考慮し、女子用ストラックスを導入しました。

#### (4) 施設紹介



平成31年2月に新体育館が完成し、学校行事や体育の授業、部活動等で利用されています。

現在でも、新築の環境は保たれ、気持ちも晴れやかに、運動や様々な活動をすることができます。

### 4 在校生からのメッセージ

#### 生徒会執行部 安保利央さん（築館中出身）からのメッセージ

岩ヶ崎高校の魅力は、生徒一人一人が勉強や行事に主体的にそして全力で取り組むことができるところです。授業では、わからないところがあると友達と教え合ったり、学校行事では、学年関係なく仲を深め合ったりすることができます。岩高では毎日の生活を充実させ、とても濃いものにすることができます。一緒に楽しい高校生活を送りましょう。



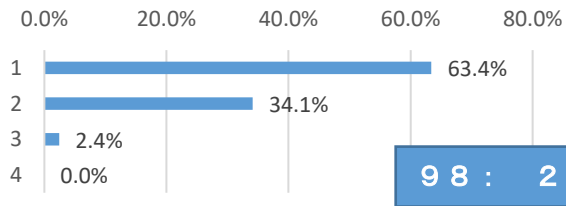
「求める生徒像・選抜方法」に関する調査項目の回答状況

1 必要な内容が記載されているか

高等学校

高(1)①【Q1】受験生が、志望校選択や受験する上で、必要な内容を記載している。

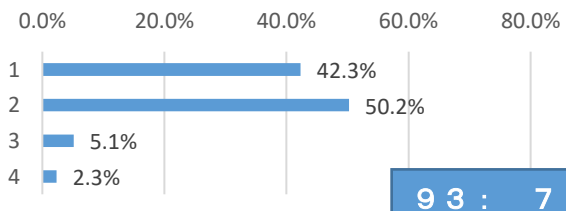
1：そう思う	52	63.4%
2：どちらかといえばそう思う	28	34.1%
3：どちらかといえばそう思わない	2	2.4%
4：そう思わない	0	0.0%
回答数合計	82	



中学校

中(2)①【Q2】生徒が、志望校選択や受験する上で、必要な内容が記載されている。

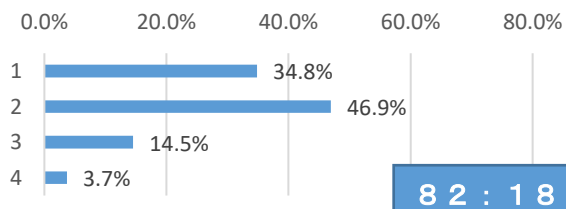
1：そう思う	91	42.3%
2：どちらかといえばそう思う	108	50.2%
3：どちらかといえばそう思わない	11	5.1%
4：そう思わない	5	2.3%
回答数合計	215	



生徒

生(2)①【Q4】受験生が、志望校選択や受験する上で、必要な内容が記載されていた。

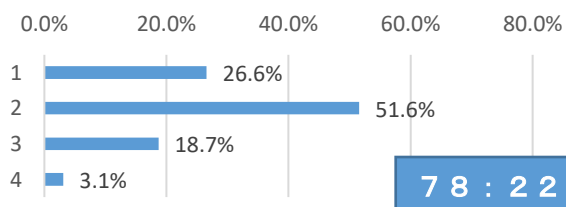
1：そう思う	1049	34.8%
2：どちらかといえばそう思う	1413	46.9%
3：どちらかといえばそう思わない	438	14.5%
4：そう思わない	111	3.7%
回答数合計	3011	



保護者

保(2)①【Q4】受験生が、志望校選択や受験する上で、必要な内容が記載されていた。

1：そう思う	557	26.6%
2：どちらかといえばそう思う	1081	51.6%
3：どちらかといえばそう思わない	392	18.7%
4：そう思わない	65	3.1%
回答数合計	2095	



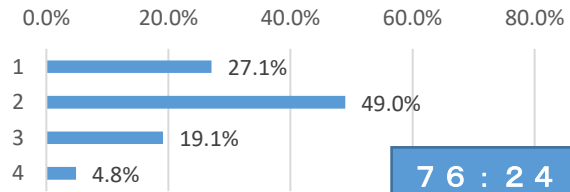
肯定的回答の割合は、高等学校・中学校と比較すると、生徒・保護者において低い。

## 2 内容が分かりやすく記載されているか

### 生徒

生(2)②【Q5】受験生にとって、内容がわかりやすく記載されていた。

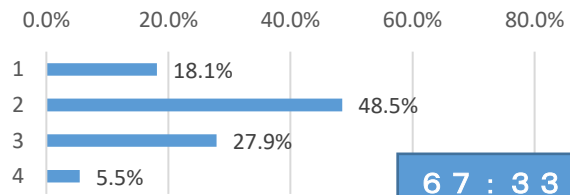
1：そう思う	815	27.1%
2：どちらかといえばそう思う	1474	49.0%
3：どちらかといえばそう思わない	576	19.1%
4：そう思わない	146	4.8%
回答数合計	3011	



### 保護者

保(2)②【Q5】受験生にとって、内容がわかりやすく記載されていた。

1：そう思う	380	18.1%
2：どちらかといえばそう思う	1016	48.5%
3：どちらかといえばそう思わない	584	27.9%
4：そう思わない	115	5.5%
回答数合計	2095	



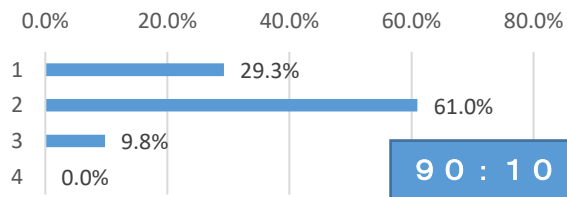
約4分の1の生徒が否定的な回答をしている。保護者の肯定的回答は7割に満たない。

### 3 受験生の進路意識の向上につながっているか

#### 高等学校

高(1)②【Q2】受験生が目的意識を向上させることにつながっている。

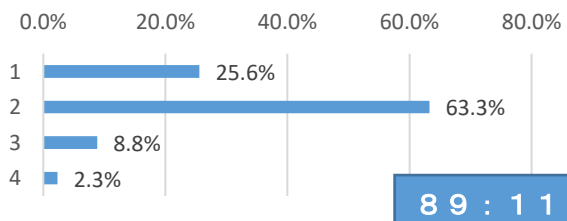
1：そう思う	24	29.3%
2：どちらかといえばそう思う	50	61.0%
3：どちらかといえばそう思わない	8	9.8%
4：そう思わない	0	0.0%
回答数合計	82	



#### 中学校

中(2)②【Q3】受験生の進路に対する意識を高めることにつながっている。

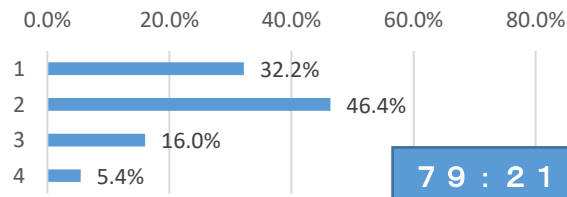
1：そう思う	55	25.6%
2：どちらかといえばそう思う	136	63.3%
3：どちらかといえばそう思わない	19	8.8%
4：そう思わない	5	2.3%
回答数合計	215	



#### 生徒

生(2)④【Q7】受験生が進路に対する意識を高めることに役立った。

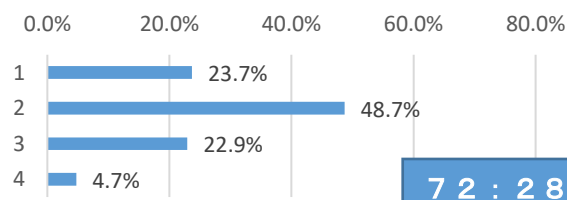
1：そう思う	969	32.2%
2：どちらかといえばそう思う	1396	46.4%
3：どちらかといえばそう思わない	482	16.0%
4：そう思わない	164	5.4%
回答数合計	3011	



#### 保護者

保(2)④【Q7】受験生が進路に対する意識を高めることに役立った。

1：そう思う	496	23.7%
2：どちらかといえばそう思う	1020	48.7%
3：どちらかといえばそう思わない	480	22.9%
4：そう思わない	99	4.7%
回答数合計	2095	



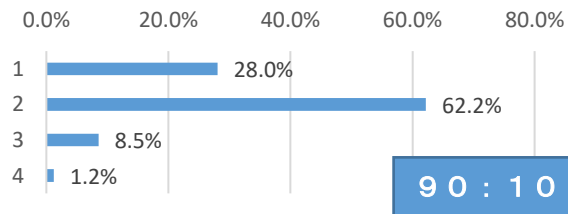
肯定的回答の割合は、高等学校・中学校と比較すると、生徒・保護者において低い。

#### 4 受験生の主体的な進路選択につながっているか

##### 高等学校

高(1)③【Q3】受験生の意思や判断に基づいた主体的な進路選択につながっている。

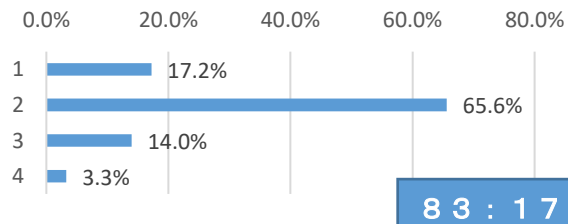
1：そう思う	23	28.0%
2：どちらかといえばそう思う	51	62.2%
3：どちらかといえばそう思わない	7	8.5%
4：そう思わない	1	1.2%
回答数合計	82	



##### 中学校

中(2)③【Q4】受験生の意思や判断に基づいた主体的な進路選択につながっている。

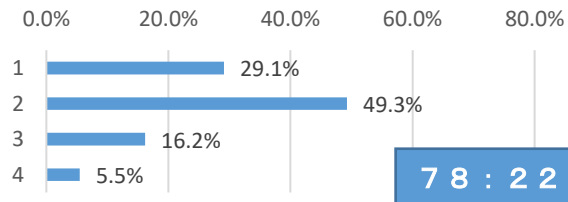
1：そう思う	37	17.2%
2：どちらかといえばそう思う	141	65.6%
3：どちらかといえばそう思わない	30	14.0%
4：そう思わない	7	3.3%
回答数合計	215	



##### 生徒

生(2)⑤【Q8】自分の意思や判断に基づいた主体的な進路選択に役立った。

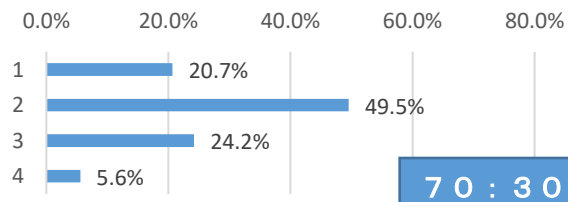
1：そう思う	876	29.1%
2：どちらかといえばそう思う	1483	49.3%
3：どちらかといえばそう思わない	487	16.2%
4：そう思わない	165	5.5%
回答数合計	3011	



##### 保護者

保(2)⑤【Q8】受験生の意思や判断に基づいた主体的な進路選択に役立った。

1：そう思う	433	20.7%
2：どちらかといえばそう思う	1038	49.5%
3：どちらかといえばそう思わない	507	24.2%
4：そう思わない	117	5.6%
回答数合計	2095	



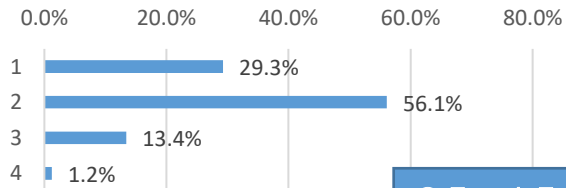
作成する側である高等学校においては、肯定的回答割合が極めて高い。

## 5 高校の特色の理解に役立っているか

### 高等学校

高(1)⑥【Q6】受験生が各高校の特色を理解することに役立っている。

1：そう思う	24	29.3%
2：どちらかといえばそう思う	46	56.1%
3：どちらかといえばそう思わない	11	13.4%
4：そう思わない	1	1.2%
回答数合計	82	

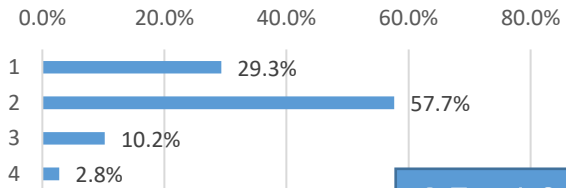


85 : 15

### 中学校

中(2)⑦【Q8】受験生が各高校の特色を理解することに役立っている。

1：そう思う	63	29.3%
2：どちらかといえばそう思う	124	57.7%
3：どちらかといえばそう思わない	22	10.2%
4：そう思わない	6	2.8%
回答数合計	215	

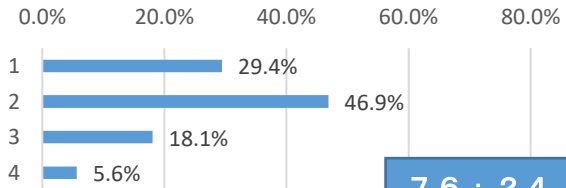


87 : 13

### 生徒

生(2)③【Q6】受験生が各高校の特色の理解することに役立った。

1：そう思う	886	29.4%
2：どちらかといえばそう思う	1411	46.9%
3：どちらかといえばそう思わない	544	18.1%
4：そう思わない	170	5.6%
回答数合計	3011	

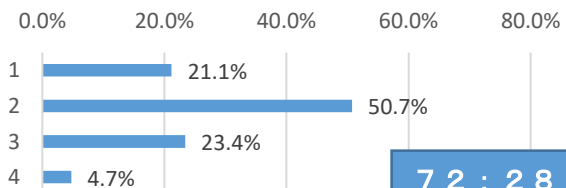


76 : 24

### 保護者

保(2)③【Q6】受験生が各高校の特色を理解することに役立った。

1：そう思う	443	21.1%
2：どちらかといえばそう思う	1063	50.7%
3：どちらかといえばそう思わない	490	23.4%
4：そう思わない	99	4.7%
回答数合計	2095	



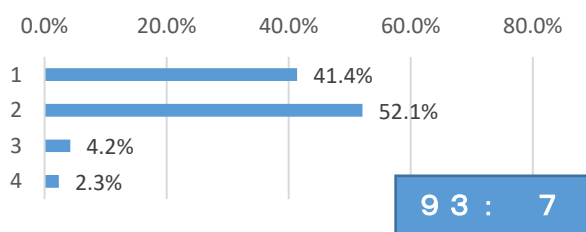
72 : 28

この項目においても、高校・中学校と生徒・保護者の受け止めに若干の乖離がある。

6 教員の理解に役立っているか

⑤【Q6】教員が各高校の特色を理解することに役立っている。

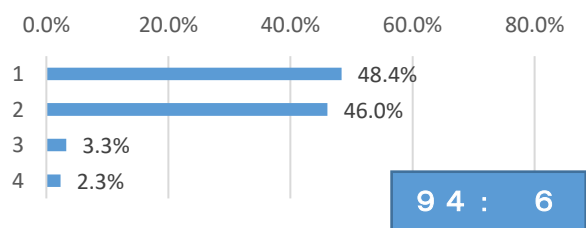
1：そう思う	89	41.4%
2：どちらかといえばそう思う	112	52.1%
3：どちらかといえばそう思わない	9	4.2%
4：そう思わない	5	2.3%
回答数合計	215	



7 教員が行う進路指導に役立っているか

⑥【Q7】教員が受験生に対して進路指導を行うことに役立っている。

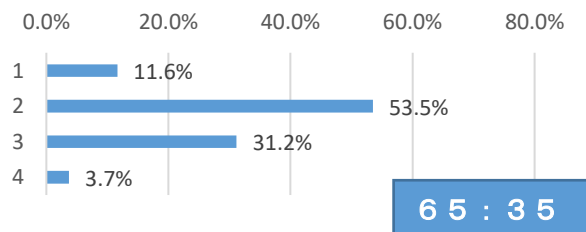
1：そう思う	104	48.4%
2：どちらかといえばそう思う	99	46.0%
3：どちらかといえばそう思わない	7	3.3%
4：そう思わない	5	2.3%
回答数合計	215	



8 学習習慣の定着に役立っているか

④【Q5】日頃の中学校生活において、生徒が学習習慣を身に付けることに役立っている。

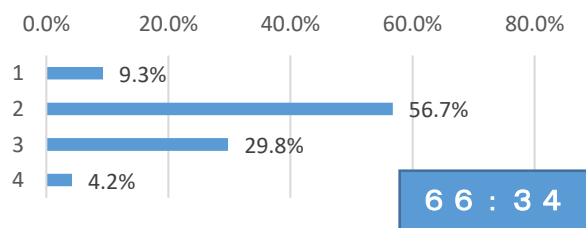
1：そう思う	25	11.6%
2：どちらかといえばそう思う	115	53.5%
3：どちらかといえばそう思わない	67	31.2%
4：そう思わない	8	3.7%
回答数合計	215	



9 生徒の中学校生活の充実に役立っているか

⑧【Q9】生徒が志をもって中学校生活を充実させることに役立っている。

1：そう思う	20	9.3%
2：どちらかといえばそう思う	122	56.7%
3：どちらかといえばそう思わない	64	29.8%
4：そう思わない	9	4.2%
回答数合計	215	



教員は有効に使用しているが、使用する主体を生徒とすると、肯定的回答割合が低下。